

# NSG

GROUP

# NSG グループ

## 2020年3月期通期決算報告

(2019年4月1日～ 2020年3月31日)

日本板硝子株式会社  
2020年5月22日

**森 重樹**

代表執行役社長兼CEO

**諸岡 賢一**

代表執行役副社長兼CFO

**クレメンス・ミラー**

代表執行役副社長兼COO

# 目次



1. 本日の概要
2. 2020年3月期通期 決算概要
3. 2020年3月期通期 事業状況
4. 新型コロナウイルス感染症の事業への影響
5. 2021年3月期の見通し
6. 今後を見据えてのアクション
7. まとめ

# 本日の概要



## 2020年3月期

- 為替変動と主要地域での事業環境悪化に加え、第4四半期は新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受ける一方で太陽電池パネル用ガラスの出荷は堅調
- 建築用ガラス事業（アジア）の収益改善施策として、千葉およびマレーシアのフロート窯（各1基）休止を決定
- のれん減損等の個別開示項目費用の計上により、修正予想対比赤字が拡大
- 期末配当は無配と決定

## 2021年3月期

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けているが、5月以降は徐々に回復を想定  
感染防止策を徹底しながら迅速な再開へ向けて準備
- 当面の流動性は確保。追加の流動性資金の調達に向けて協議中
- 現金支出の最小化とともに、追加改善施策に取り組み
- 2021年3月期業績予想は、新型コロナウイルス感染症の影響を見極め、可及的速やかに発表予定

## 中期経営計画

- 「コロナ後の世界」の変化を見据え、中期経営計画は再検討後、時期を見極め発表予定
- 既存事業の収益力改善と財務安定性の回復が喫緊の課題。中期的にはアセットライトな事業体質への変革

## 2020年3月期通期 決算ハイライト



為替変動と主要地域での事業環境悪化に加え、Q4はCOVID-19の影響を受ける

売上高	5,562億円 (前年比△9%)	為替変動の影響に加え、主要地域の事業環境悪化により減少 為替影響を除けば前年比5%減少
無形資産償却前 営業利益	230億円 (前年比△41%)	建築用は欧州を中心に事業環境のさらなる悪化と稼働率の低下 自動車用は欧州を中心に数量減に加え、COVID-19影響で 減少拡大 一方で太陽電池パネル用ガラスの出荷は堅調
親会社所有者に 帰属する当期損失	△189億円	営業利益、持分法投資利益の減少に加え、COVID-19関連や のれん減損を含む個別開示項目費用の計上により赤字拡大
フリー・キャッシュ・フロー	△264億円	大幅マイナスだが、当初想定通り、戦略投資（△413億円）を 除けばプラス
普通配当	-	2020年3月期末の普通株配当は遺憾ながら見送り

2020年5月22日 | 2020年3月期通期決算報告

6

2020年3月期通期の決算ハイライトです。

2020年3月期の業績は、為替変動の影響と欧州を中心に主要地域での事業環境の悪化に加え、第4四半期に入り、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けました。

売上高は、5,562億円となり、前年比9%減ですが、為替換算の影響を除くと、5%の減収です。

無形資産償却前営業利益は、前年比41%減の230億円となりました。建築用ガラス事業は、欧州を中心に事業環境のさらなる悪化の影響を受けました。自動車用ガラス事業は、欧州を中心に乗用車生産台数の減少に加え、3月以降は新型コロナウイルス感染拡大により、顧客であるカーメーカーの工場稼働が休止したことなどによる影響を受けました。一方で、太陽電池パネル用ガラスの出荷は年度を通じて堅調でした。

親会社所有者に帰属する当期損失は、189億円となりました。これは営業利益および持分法投資利益の減少に加え、個別開示項目費用として、のれんおよび無形資産の減損損失、千葉とマレーシアのフロート窯それぞれ1基ずつの休止、および新型コロナウイルス感染症による設備休止に係る費用等を計上したことによります。

フリー・キャッシュ・フローについては、マイナスの264億円となりました。これは主に当期損失の計上と戦略投資によるものですが、戦略投資の413億円を除いたベースでは、当初の想定通り、プラスのフリー・キャッシュ・フローとなりました。

普通株式に対する期末配当は、誠に遺憾ではございますが見送りとする決定をしました。

# 連結損益計算書



営業利益はほぼ修正予想に沿った着地。一方で個別開示項目費用が増加

(億円)	2019年3月期 実績	2020年3月期 修正予想 (Q3決算時)	2020年3月期 実績	前年比 増減	予想比 増減
売上高	6,128	5,600	5,562	(566)	(38)
無形資産償却前営業利益	388	230	230	(158)	0
償却費*	(19)	(20)	(18)	1	2
営業利益	369	210	212	(157)	2
個別開示項目	(71)	(70)	(240)	(169)	(170)
金融費用(純額)	(133)	(130)	(118)	15	12
持分法による投資損益	62	20	11	(51)	(9)
税引前利益/(損失)	227	30	(135)	(362)	(165)
当期利益/(損失)	144	(20)	(175)	(319)	(155)
親会社の所有者に帰属する当期利益/(損失)	133	(30)	(189)	(322)	(159)
EBITDA	647	-	550	(97)	-

\*: ビルキントン買収に伴って発生した無形資産の償却

2020年5月22日 | 2020年3月期通期決算報告

7

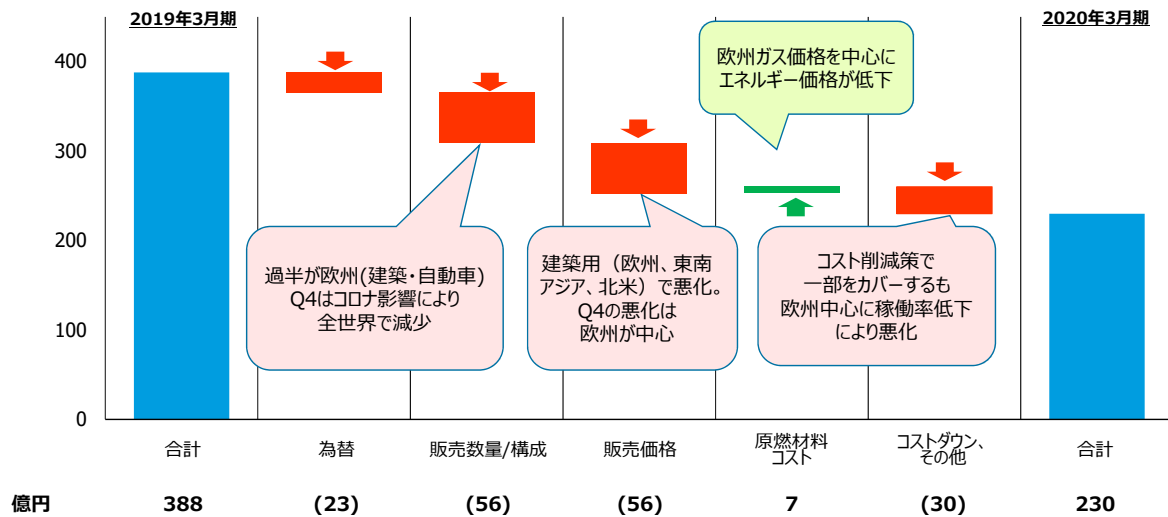
連結損益計算書になります。

無形資産償却前営業利益は、修正予想に概ね沿った着地となりましたが、第4四半期において196億円の個別開示項目費用を計上したことにより、親会社の所有者に帰属する当期損失は、修正予想の30億円から189億円へ拡大しております。

個別開示項目としては、通期で240億円の費用を計上しました。

# 営業利益差異分析 (無形資産償却前)

為替変動と事業環境悪化に伴う数量減、価格下落および稼働率の低下



2020年5月22日 | 2020年3月期通期決算報告

無形資産償却前営業利益について、前年との差異について説明しています。原燃材料コストの影響はプラスに転じましたが、それ以外の為替影響、数量減、販売価格の下落、稼働率の低下がいずれもマイナス影響となり、減益となりました。

「為替換算」は、主に欧州、南米通貨の影響により、前年に比べて23億円のマイナスになっています。

「販売数量/構成」は、建築用・自動車用ともに欧州などの主要地域の事業環境悪化に加え、第4四半期からは新型コロナウイルス感染症の影響を受けました。

「販売価格」は、建築用ガラス事業の欧州・東南アジア・北米などでガラスの供給が増えたことによる影響で悪化しました。

「原燃材料コスト」は、物流費や原材料費が増加しましたが、欧州を中心にエネルギー価格の下落により、プラスになりました。

「コストダウン, その他」ですが、欧州を中心とした稼働率の低下などの影響が、これまでのコスト削減等によるプラス効果を上回り、全体として30億円のマイナスとなっています。



# 個別開示項目

## 第4四半期に196億円の費用を計上

単位：億円

	2019年3月期	2020年3月期	
子会社及びジョイント・ベンチャーの売却による利益	-	13	自動車用（欧州、その他地域） のれん、無形資産の 減損損失
有形固定資産の売却による利益	-	11	
事業閉鎖に伴う換算差額の実現益	7	-	千葉1号窯休止関連 （40億円、3/31開示） マレーシア1号窯休止決定 （3億円）
のれん及び無形資産の減損損失	-	(117)	
リストラクチャリング費用	(44)	(64)	ロックダウンに伴う設備休止など
有形固定資産等の減損損失及び減損損失戻入益	(8)	(43)	
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による設備休止に係る費用	-	(22)	
設備休止に係る費用	(10)	(15)	
退職給付に係る負債の過去勤務費用	(14)	-	
その他	(2)	(3)	
	(71)	(240)	

2020年5月22日 | 2020年3月期通期決算報告

9

個別開示項目の内訳になります。

年度全体で240億円の費用を計上しましたが、この内196億円については第4四半期に計上しました。第4四半期に計上したもののうち、主要な3項目は以下です。

一つ目は、のれんおよび無形資産の減損損失です。国際会計基準の規定に基づき、減損テストを行った結果、自動車用ガラス事業の欧州およびその他の地域において、合計で117億円の減損損失を計上することとしました。

二つ目は、有形固定資産等の減損損失です。2020年3月31日に公表しました、当社千葉事業所の「千葉1号窯」の生産休止の決定に伴って計上した減損損失40億円と、マレーシア1号窯の休止の決定に伴い計上した設備減損損失3億円が含まれています。これらの決定は、建築用ガラス・アジア地域の収益性改善に向けた構造改革施策になります。

三つ目は、新型コロナウイルス感染症による設備休止に係る費用の22億円です。これは新型コロナウイルス感染拡大により休止や稼働調整をした工場設備の固定費などの費用です。

## 連結キャッシュ・フロー



フリー・キャッシュ・フローは、当初想定通り戦略投資を除けばプラス

単位：億円	2019年3月期	2020年3月期	増減
当期利益/(損失)	144	(175)	(319)
法人所得税	84	40	(44)
減価償却費	279	348	69
減損損失	19	171	152
資産売却益	(2)	(25)	(23)
持分法による投資利益	(62)	(11)	51
法人所得税支払額	(54)	(56)	(2)
その他	(68)	(74)	(6)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー（運転資本の増減考慮前）</b>	<b>340</b>	<b>218</b>	<b>(122)</b>
運転資本の増減	(50)	87	137
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>290</b>	<b>305</b>	<b>15</b>
有形固定資産の取得	(281)	(609)	(328)
資産売却収入	5	39	34
その他	(5)	1	6
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>(281)</b>	<b>(569)</b>	<b>(288)</b>
<b>フリー・キャッシュ・フロー</b>	<b>9</b>	<b>(264)</b>	<b>(273)</b>
<b>戦略投資を除くフリー・キャッシュ・フロー</b>	<b>60</b>	<b>149</b>	<b>89</b>

2020年5月22日 | 2020年3月期通期決算報告

10

連結キャッシュ・フローになります。

運転資本の増減考慮前の営業キャッシュ・フローについては、当期損失を計上したものの当期損失にはノンキャッシュの減損損失等が含まれているため、トータルとしては前年対比でマイナス122億にとどまっています。

運転資本については売上減で売掛金が減少していることもありますが、前年比で137億円改善していることもあり、営業キャッシュ・フロー全体では前年比で15億円改善しています。

投資キャッシュ・フローは戦略投資の実行によりマイナスとなっています。

この結果、フリー・キャッシュ・フローは264億円のマイナスとなりましたが、先に申した通り、戦略投資の413億円を除けば、当初の想定通り149億円のプラスとなりました。

## 主要財務指標 (KPI)



ネット借入はIFRS16号の適用や戦略投資などにより増加  
自己資本は為替換算差額、当期損失、A種種類株式の償還などにより減少

	2019年3月末	2020年3月末
ネット借入 (億円)	3,177	3,902 <sup>*1</sup>
ネット借入/EBITDA	4.9x	7.1x
ネット借入/純資産比率	2.4x	4.4x
自己資本比率	16.2%	9.6%

	2019年3月期	2020年3月期
営業利益率 <sup>*2</sup>	6.3%	4.1%

\*1: IFRS16号適用による283億円の増加を含む

\*2: 無形資産償却前営業利益

主要財務指標の一覧になります

「ネット借入」は、主にIFRS第16号「リース」の適用や戦略投資などの影響により、前期末から725億円増加し、3,902億円となりました。

「ネット借入/EBITDA比率」および「ネット借入/純資産比率」は、「ネット借入」の増加による影響を受けました。

「自己資本比率」は、当期損失に加え、為替換算の影響とA種種類株式の償還などにより、前期末の16.2%から9.6%へ減少しました。

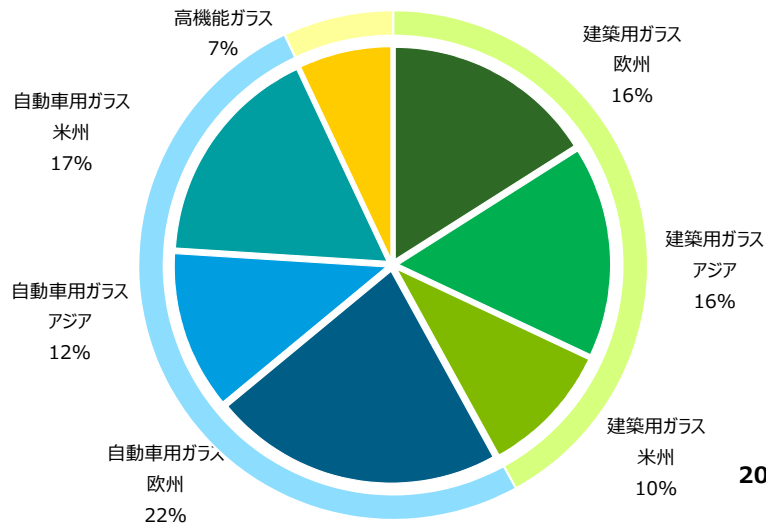
「営業利益率」は、4.1%となりました。

# 事業別売上高

グローバルに事業展開



5,562億円



2020年3月期 通期

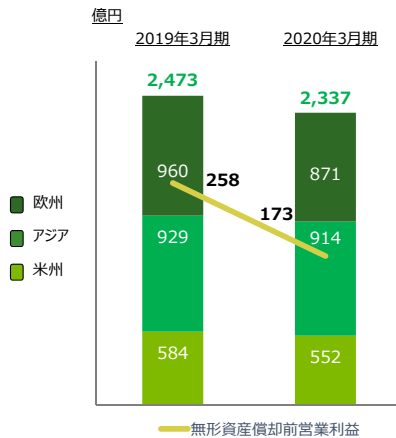
2020年5月22日 | 2020年3月期通期決算報告

12

当社グループの事業セグメント毎の売上高の構成比を示しています。

## 建築用ガラス事業 前年比

為替変動と事業環境の悪化、稼働率低下の影響を受ける。太陽電池パネル用ガラスは堅調



**売上:** 主に為替影響、加えてQ3以降の事業環境悪化により減収  
**営業利益:** 過半が欧州での減益

### 欧州 (減収・減益)

- 為替変動に加え、ガラス供給増によりQ3以降は価格下落。COVID-19影響で期末はさらに数量が減少し減収
- 売上減と稼働率低下で減益幅が拡大

### アジア (減収・減益)

- 太陽電池パネル用ガラスの販売数量は伸長するも、東南アジアでの供給増による一般建築用ガラスの事業環境悪化で減収減益
- 日本の太陽電池パネル用ガラスの生産はベトナム新設窯へ移管

### 米州 (減収・減益)

- 北米は太陽電池パネル用ガラスの出荷は増加。一方で一般建築用ガラスの供給増による価格下落あり、売上は横ばいを維持したが減益
- 南米は主に為替変動の影響で減収

当社グループの建築用ガラス事業の業績についてご説明します。

売上高は、欧州や南米の通貨安の影響に加えて、第3四半期以降の事業環境の悪化に伴い、前年比6%減の2,337億円となりました。営業利益は前年比85億円減の173億円となりました。過半が欧州での減益です。

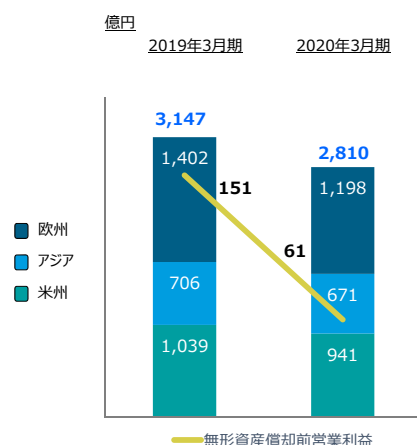
欧州では、ユーロ安に加えて、第3四半期以降に顕著となった、域内でのガラス供給の増加に伴う販売価格の大幅な下落や新型コロナウイルス感染症の影響により、減収となりました。この売上減の影響に加え、稼働率の低下による影響が加わり、第4四半期において減益幅が拡大しました。

アジアでは、東南アジアでの供給増による一般建築用ガラスの事業環境悪化の影響により、減収減益となりました。一方で太陽電池パネル用ガラスの販売数量は引き続き伸びました。また2020年3月31日に開示の通り太陽電池パネル用ガラスは千葉事業所での応援生産を終了し、2020年1月に稼働したベトナムの新設窯へ移管しました。

北米でも太陽電池パネル用ガラスは堅調ですが、一般建築用ガラスの市場で供給が増加したことで、価格が下落し、減益となりました。南米は為替変動の影響により、減収となりました。

## 自動車用ガラス事業 前年比

欧州を中心に自動車生産減少。Q4はCOVID-19による影響を大きく受ける



**売上:** 為替影響に加え、主に欧州、次いで北米の売上減により減収  
**営業利益:** 大半が欧州の減益だが、Q3以降は日本も悪化

### 欧州 (減収・減益)

- 数量減で減収減益。COVID-19影響によるカーメーカーの休止で年度末にかけて自動車生産が大幅に減少

### アジア (減収・減益)

- 日本は上期の出荷堅調な一方、消費税率引き上げ後は減収  
 営業利益は素板コスト増加に加えてQ3以降の数量減により減益

### 米州 (減収・増益)

- 北米はCOVID-19影響で数量減少するも、生産効率改善により増益
- 南米の利益は前年並みで推移

次に自動車用ガラス事業です。

自動車用ガラス事業全体では、為替換算の影響に加え、欧州を中心とした自動車生産の減少による影響を受け、また第4四半期では新型コロナウイルス感染拡大の影響も加わり、売上高は前年比11%減の2,810億円、利益は前年比90億円減の61億円になりました。

欧州では、自動車生産台数の減少に加え、年度末にかけて新型コロナウイルス感染症に伴うカーメーカーの操業停止などの影響を受け、減収減益となりました。

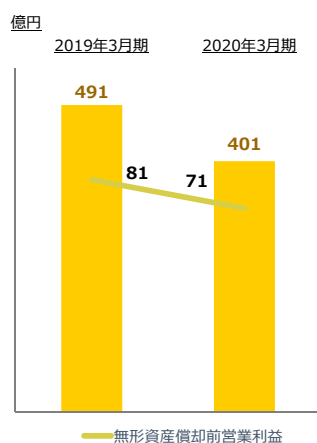
アジアは、前年比減収減益となりました。日本では、上期は消費税率引き上げ前の需要もあって出荷が堅調でしたが、第3四半期以降は消費税率引き上げ後の反動減により、減収となりました。利益は、素板コストの増加に加え、第3四半期以降に数量が減少したことで減益となりました。

米州は、建築用ガラス事業と同様に、為替換算の影響を受けました。売上高は、アルゼンチン・ペソやブラジル・レアルの下落などにより、前年比で9%の減収となりました。

北米では新型コロナウイルス感染拡大の影響で数量が減少しましたが、生産効率の改善により、増益となりました。南米の利益は前年並みの水準となりました。

## 高機能ガラス事業 前年比

一部の事業での厳しい事業環境の影響を受ける



### 高機能ガラス事業 (減収・減益)

- ファインガラスは、継続的なコスト削減や売上構成改善により増益
- プリンター用レンズは、需要軟化の影響を受け減少
- グラスコードは欧州自動車市場の影響を受け、年度末にかけて減少
- バッテリーセパレーターは業績は安定

最後に高機能ガラス事業です。

高機能ガラス事業全体では、プリンター用レンズやグラスコードなど一部の事業で厳しい市場環境であった一方、ファインガラス事業では一層の利益改善が見られました。結果として売上高は前年比90億円減収の401億円、利益は前年比10億円減の71億円になりました。

セグメント別の状況ですが、ファインガラス事業は、継続的に続けてきましたコスト削減や売上構成の改善が利益に反映しています。

プリンター用レンズは需要軟化の影響を受け減収減益となりました。

エンジンのタイミングベルトに使用されるグラスコードも、欧州や中国における自動車生産減少の影響を受け、減収減益となりました。

バッテリーセパレーターの業績は安定的に推移しています。

# 新型コロナウイルス感染症の事業への影響



## 感染防止策を徹底。需要・規制に合わせ操業活動を低減。迅速な再開へ向けて準備

1. 従業員の安全を最優先に各国・地域の政府の方針に従い速やかに対応
  - ・ 製造現場での感染防止対策、在宅勤務など
2. 操業状況：

自動車用ガラス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カーメーカーの稼働状況に合わせて対応中</li> <li>・ 顧客の再稼働予定（欧州：5月中旬、北米：5月末、南米：6月）に合わせ、安全対策を実施した上で再立ち上げ準備中</li> <li>・ 日本・中国は稼働率を落として操業中</li> </ul>
建築用ガラス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ フロートラインは自動車用ガラス向けを含め、各地で稼働調整実施中 欧州：一部の窯でホットホールド、その他は稼働率を落として生産 北米：一般建築用は稼働調整だが、ソーラー用はフル生産 南米：1窯を除き、5月に通常生産再開 日本・アジア：一部の窯で生産調整実施</li> <li>・ 加工ラインは操業を継続</li> </ul>
高機能ガラス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自動車関連製品など低稼働の分野はあるが操業を維持</li> </ul>
グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原燃料材料の調達に大きな問題なし</li> </ul>

2020年5月22日 | 2020年3月期通期決算報告

16

新型コロナウイルス感染症の事業への影響についてご説明します。

コロナウイルス感染が拡大を始めて以降、当社では従業員の安全を最優先に徹底した取り組みを行っています。在宅勤務が可能な従業員は在宅勤務を推進する一方、製造などそれができない職場においては、各国・地域の政府の方針やガイドラインに従い、職場での感染防止策を講じています。例えば、保護具の支給、ソーシャルディスタンスや衛生に関するガイドラインの制定に加えて、製造工程や工場レイアウトの変更も行っています。

生産活動は、各地のロックダウン等日常生活への制約や自動車用ガラスの急激な需要減の影響を受けています。

自動車用ガラス事業では、各地の自動車メーカーの生産体制に合わせた操業となっています。3月中旬から4月いっぱい、ほぼすべての事業所で生産中止や大幅に稼働を落として操業していました。経済活動が徐々に再開し、当社でも生産を再開したラインや近日中に再開予定のラインが出てきています。

建築用ガラス事業においては、ロックダウンや自動車用ガラスの需要減により、3月末から需要の下落が始まりました。そのため多くのフロート窯でホットホールド、板割（※）、低稼働で生産の調整を図っています。一方で、ソーラー用のフロートなどフル操業の窯もあります。高機能ガラス事業については、現時点での影響は相対的に小さいものに収まっています。また、原燃料材料の調達にも大きな問題はありません。

※板割：生産した板ガラスを製品にせず、原料としてフロート窯に戻すこと



## 新型コロナウイルス感染症の事業への影響



4月の単月売上が最大の減少（前年同月比△52%）、5月以降年度末にかけて各地の稼働再開により徐々に回復を想定

新型コロナウイルス感染症による売上高への影響（概算）

	2020年3月期第4四半期 （対業績予想）	2021年3月期第1四半期 見通し（対前年実績）
自動車用ガラス	△10%	△50~60%
建築用ガラス	△3%	△30~40%
高機能ガラス	ほぼ予想通り	△10~20%
グループ合計	△7%	△40~50%

新型コロナウイルス感染症による売上高への影響についてご説明します。  
都市や国のロックダウンは3月後半から本格的に始まったため、2020年3月期第4四半期における売上への影響は100億未満となり、そのほとんどが自動車用ガラスにおけるものでした。2021年3月期において、単月では4月への影響が一番大きいと考えていますが、前年比52%の売上ダウンとなりました。  
現時点での見方は、世界各地でロックダウンが解除され、自動車メーカーが操業を開始するのに合わせて今後は徐々に需要は回復するものと考えています。  
2021年3月期第1四半期の売上は前年比40~50%減少すると推定しています。第2四半期以降はまだまだ不透明ですが、全体としては回復基調が続くと考えています。しかし回復のペースは緩やかなものになることも想定しています。

## 2021年3月期の見通し



業績予想開示は当面留保。流動性を確保しながら、現金支出最小化・追加改善施策に取り組み

### 2021年3月期通期業績予想

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響を見極め、可及的速やかに発表予定

### 当面の流動性は確保済

- ・ 3月末の現預金残 436億円、未使用融資枠残 655億円
- ・ 追加の流動性資金の調達に向けて協議中

### 現金支出の最小化とともに、追加改善施策に取り組み

- ・ 重要案件を除き、可能な限り投資を凍結（アルゼンチンの新設も凍結）
- ・ 稼働調整の最適化により原燃料節減・レイオフ実施。公的補助金も利用
- ・ 役員報酬返上も含め、支出・コスト削減を徹底
- ・ ノンコア資産売却や運転資本改善施策は継続検討、実施
- ・ 千葉・マレーシアなどの設備休止による固定費削減効果、加えて堅調なソーラー需要にも期待
- ・ 追加施策の迅速な実施に向けて準備中

2021年3月期の見通しについてご説明します。

現時点では、新型コロナウイルス感染拡大による事業への影響が不透明であるため、2021年3月期の通期業績予想の開示を控えています。影響を見極め次第、可及的速やかに発表予定です。

資金の状況ですが、当面の流動性については確保済であり、追加の流動性資金の調達についても鋭意協議を行っています。

一方、現在の事業環境の厳しさを踏まえた対応策としては、現金支出の最小化を最優先して進めています。

具体的な対策としては、まず、一部の重要案件を除き、新規投資の凍結を決めています。凍結対象にはアルゼンチンに新設予定のフロート窯も含まれます。

製造においては、各地で可能な限り合理的な生産体制を作ることで人員の一時帰休や使用原材料の節減に努めています。影響の大きかった4月において相当の数の人員がレイオフの対象となりました。各国の雇用調整助成金などの公的補助金の活用も行っています。また、役員報酬の自主返上も含め徹底した支出削減を行っています。

さらに、ノンコア資産の売却や運転資本改善は継続的に検討・実施しています。

一方で、千葉およびマレーシアでの設備休止による固定費削減効果や堅調なソーラー需要も、利益・キャッシュフロー改善に貢献すると期待しています。

もちろんこれだけでは新型コロナウイルス感染拡大の影響を緩和するには十分とは言えず、さらなる追加改善策の策定を進めており、早期での実行を目指しています。

## 今後を見据えてのアクション



1. 既存事業の収益力改善と財務安定性の回復が喫緊の課題
  - ・ 既存事業のコスト構造の変革、VA戦略の加速により早急に収益力の改善を行う
  - ・ 成長分野および新規事業分野の拡充を図り、早期の収益貢献を実現する
  - ・ 合わせて、間接経費の削減、投資抑制、ノンコア事業・資産の売却により、有利子負債の削減を図る
  - ・ 以上の施策により、持続可能な当期利益とキャッシュを生み出す体質を回復する
2. 中期的には、アセットライトで景気変動に強い事業体質への構造変革を進める
  - ・ 「コロナ後の世界」を見据え、継続・拡大させる事業と見直す事業を明確にし、事業構成を変えていく（健康、衛生、環境などにかかわる価値をより重視。太陽光・熱発電、省エネ、抗菌・抗ウイルス、遺伝子検査、テレワーク、カメラ、センサー、情報通信などの分野でのガラスのニーズ拡大に対応）
  - ・ アセットライトなコスト構造、マーケットオリエンテッドな商品開発・販売体制を構築する
  - ・ ICT（情報通信技術）を活用し、リーンでアジャイルな組織を目指す
3. 新中期経営計画は、新型コロナウイルス感染症の拡大影響を見極め、上記方針を織り込んだ上で公表予定

今後を見据えてのアクション等についてご説明します。

新型コロナウイルス感染症への対処も引き続き進めていくのはもちろんのことですが、これに加えて当社にとって喫緊の課題は、傷んだ自己資本を早急に改善させ、財務安定性を回復させることです。

そのためには既存事業の収益力を抜本的に改善し、キャッシュアウトを最小限に留め、有利子負債を削減していかなければなりません。この先2年程度で、持続可能な当期利益とキャッシュを生み出す体質に早期に回復させたいと考えています。

また装置産業である当社のコスト構造は固定費が高く、ボリュームに左右される、VA化が進展しても需要の変動で価格変動に巻き込まれるといった景気変動に弱い体質をまだ残しています。このため、中期的には、アセットライトで景気変動に強い事業体質への構造変革を進めていく必要があります。

新型コロナウイルス感染症の終息後の「コロナ後の世界」は、人々の生活や経済環境が大きく変わっていくことが想定されますが、健康、衛生、環境といった分野は今後ますますニーズが高まっていくと考えています。

ここに当社の製品が強みを発揮できるチャンスがあると信じていますが、このチャンスを生かすためには、アセットライトで、マーケットオリエンテッドな商品開発・販売体制を構築するリーンでアジャイルな組織が必要であり、その実現に向けてICTも活用しながら進めていきたいと考えています。

今期からは新中期経営計画の期間になりますが、新中期経営計画の詳細については新型コロナウイルス感染症の拡大影響を見極め、これらの方針を確り織り込んだ上で、改めて公表します。

## まとめ



### 2020年3月期

- 為替変動と主要地域での事業環境悪化に加え、第4四半期は新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受ける一方で太陽電池パネル用ガラスの出荷は堅調
- 建築用ガラス事業（アジア）の収益改善施策として、千葉およびマレーシアのフロート窯（各1基）休止を決定
- のれん減損等の個別開示項目費用の計上により、修正予想対比赤字が拡大
- 期末配当は無配と決定

### 2021年3月期

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けているが、5月以降は徐々に回復を想定。感染防止策を徹底しながら迅速な再開へ向けて準備
- 当面の流動性は確保。追加の流動性資金の調達に向けて協議中
- 現金支出の最小化とともに、追加改善施策に取り組み
- 2021年3月期業績予想は、新型コロナウイルス感染症の影響を見極め、可及的速やかに発表予定

### 中期経営計画

- 「コロナ後の世界」の変化を見据え、中期経営計画は再検討後、時期を見極め発表予定
- 既存事業の収益力改善と財務安定性の回復が喫緊の課題。中期的にはアセットライトな事業体質への変革

2020年3月期については、事業環境の悪化および新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受け、さらに個別開示項目費用の計上等により当期損失を計上するに至り、この状況を受けて期末配当は誠に遺憾ながら無配と決定いたしました。

2021年3月期についても新型コロナウイルスの影響を受け、厳しい立ち上がりとなりましたが、5月以降は徐々に回復していくことを想定しています。まずは資金流動性を確保しながら、徹底してキャッシュの流出を抑え、一方で、さらなる追加改善策を立案・実施していきます。

そして当社の喫緊の課題である財務安定性の回復に向けて、既存事業を抜本的に改善して早期に業績を回復させたいと考えています。

中期的には、新型コロナウイルス感染症の終息後の「コロナ後の世界」に当社の製品が強みを発揮できるチャンスを生かすために、アセットライトでリーンでアジャイルな組織を早期に作り上げたいと思います。

## ご注意



当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境及び競争環境、製品需給、為替・金利相場、原燃料市場環境、法規制の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

日本板硝子株式会社

## 補足資料

- 連結損益計算書（第4四半期 3ヶ月）
- 事業部門別・地域別売上高及び償却前営業利益
- 事業部門別・地域別業績 四半期別推移
- 連結貸借対照表
- 為替レート等
- 減価償却費・資本的支出・研究開発費
- 2019年11月～2020年4月 主なニュースリリース

## 連結損益計算書 (第4四半期 3ヶ月)



(億円)	2019年3月期 実績	2020年3月期 修正予想 (Q3決算時)	2020年3月期 実績	前年比 増減	予想比 増減
売上高	1,534	1,342	1,304	(230)	(38)
無形資産償却前営業利益	116	36	36	(80)	0
償却費 *	(4)	(6)	(4)	0	2
営業利益	112	30	32	(80)	2
個別開示項目	(38)	(26)	(196)	(158)	(170)
金融費用 (純額)	(31)	(35)	(23)	8	12
持分法による投資損益	13	8	(1)	(14)	(9)
税引前利益/(損失)	56	(23)	(188)	(244)	(165)
当期利益/(損失)	30	(39)	(194)	(224)	(155)
親会社の所有者に帰属する当期利益/(損失)	28	(42)	(201)	(229)	(159)
EBITDA	180	-	118	(62)	-

\*: ビルキントン買収に伴って発生した無形資産の償却

## 事業部門別・地域別売上高

2019年3月期通期との比較



単位：億円	第4四半期（1月-3月：3ヶ月）			通期累計（4月-3月：12ヶ月）		
	2019年3月期	2020年3月期	増減	2019年3月期	2020年3月期	増減
<b>建築用ガラス事業</b>	<b>606</b>	<b>536</b>	<b>(70)</b>	<b>2,473</b>	<b>2,337</b>	<b>(136)</b>
欧州	233	208	(25)	960	871	(89)
アジア	231	197	(34)	929	914	(15)
米州	142	131	(11)	584	552	(32)
<b>自動車用ガラス事業</b>	<b>797</b>	<b>664</b>	<b>(133)</b>	<b>3,147</b>	<b>2,810</b>	<b>(337)</b>
欧州	355	291	(64)	1,402	1,198	(204)
アジア	183	160	(23)	706	671	(35)
米州	259	213	(46)	1,039	941	(98)
<b>高機能ガラス事業</b>	<b>124</b>	<b>99</b>	<b>(25)</b>	<b>491</b>	<b>401</b>	<b>(90)</b>
欧州	23	20	(3)	81	71	(10)
アジア	97	77	(20)	395	317	(78)
米州	4	2	(2)	15	13	(2)
<b>その他</b>	<b>7</b>	<b>5</b>	<b>(2)</b>	<b>17</b>	<b>14</b>	<b>(3)</b>
<b>合計</b>	<b>1,534</b>	<b>1,304</b>	<b>(230)</b>	<b>6,128</b>	<b>5,562</b>	<b>(566)</b>



## 事業部門別・地域別 償却前営業利益\*

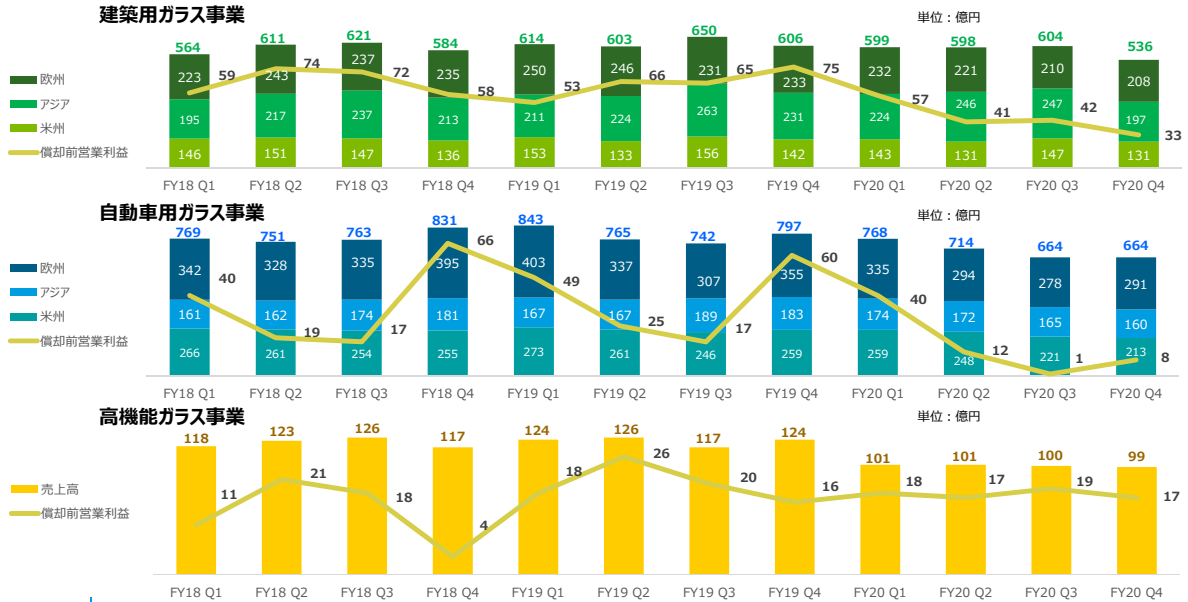
2019年3月期通期との比較



単位：億円	第4四半期（1月-3月：3ヶ月）			通期累計（4月-3月：12ヶ月）		
	2019年3月期	2020年3月期	増減	2019年3月期	2020年3月期	増減
建築用ガラス事業	75	33	(42)	258	173	(85)
自動車用ガラス事業	60	8	(52)	151	61	(90)
高機能ガラス事業	16	17	1	81	71	(10)
その他	(35)	(22)	13	(102)	(75)	27
<b>合計</b>	<b>116</b>	<b>36</b>	<b>(80)</b>	<b>388</b>	<b>230</b>	<b>(158)</b>
欧州	61	19	(42)	186	85	(101)
アジア	54	21	(33)	198	131	(67)
米州	36	18	(18)	106	89	(17)
その他	(35)	(22)	13	(102)	(75)	27
<b>合計</b>	<b>116</b>	<b>36</b>	<b>(80)</b>	<b>388</b>	<b>230</b>	<b>(158)</b>

\*: 無形資産償却前営業利益

# 事業部門別・地域別売上高及び償却前営業利益\* 四半期別推移



2020年5月22日 | 2020年3月期通期決算報告

\*: 無形資産償却前営業利益

## 連結貸借対照表



単位：億円

	2019年3月末	2020年3月末	増減
<b>資産</b>	<b>7,619</b>	<b>7,652</b>	<b>33</b>
<b>非流動資産</b>	<b>5,163</b>	<b>5,411</b>	<b>248</b>
のれん・無形資産	1,611	1,386	(225)
有形固定資産	2,415	2,945	530
その他	1,137	1,080	(57)
<b>流動資産</b>	<b>2,456</b>	<b>2,241</b>	<b>(215)</b>
現金及び現金同等物	524	436	(88)
その他	1,932	1,805	(127)
<b>負債</b>	<b>6,294</b>	<b>6,770</b>	<b>476</b>
<b>流動負債</b>	<b>1,930</b>	<b>2,004</b>	<b>74</b>
金融負債	422	587	165
その他	1,508	1,417	(91)
<b>非流動負債</b>	<b>4,364</b>	<b>4,766</b>	<b>402</b>
金融負債	3,293	3,763	470
その他	1,071	1,003	(68)
<b>資本</b>	<b>1,325</b>	<b>882</b>	<b>(443)</b>
親会社の所有に帰属する持分	1,238	736	(502)
非支配持分	87	146	59
<b>負債及び資本</b>	<b>7,619</b>	<b>7,652</b>	<b>33</b>

2020年5月22日 | 2020年3月期通期決算報告

27

# 為替レート等



## 期中平均レート

	FY2018				FY2019				FY2020			
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
英ポンド	142	144	146	147	149	147	146	146	141	137	138	<b>138</b>
ユーロ	122	126	128	130	131	130	129	129	124	121	121	<b>121</b>
米ドル	111	112	111	111	110	111	111	111	109	109	109	<b>109</b>
ブラジル・レアル	34.6	35.0	34.8	34.4	30.4	29.3	29.3	29.4	28.0	27.6	27.2	<b>26.4</b>
アルゼンチン・ペソ	7.06	6.74	6.65	6.30	4.70	-	-	-	-	-	-	<b>-</b>

## 為替感応度

他の条件に変動がない条件で、為替レートが他の通貨に対して1%円高になった場合の増加（減少）額

(億円)	FY2019	FY2020
資本	(33.0)	(31.0)
当期利益/(損失)	(2.0)	1.0

## 期末レート

	FY2018				FY2019				FY2020			
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
英ポンド	146	151	152	150	145	148	141	144	137	133	144	<b>133</b>
ユーロ	128	132	136	132	128	132	127	124	123	118	122	<b>119</b>
米ドル	112	113	113	106	111	113	111	111	108	108	109	<b>108</b>
ブラジル・レアル	34.0	35.4	33.9	32.1	28.6	28.2	28.5	28.3	28.3	26.0	27.1	<b>20.8</b>
アルゼンチン・ペソ	6.81	6.42	6.03	5.30	3.94	2.84	2.93	2.53	2.53	1.88	1.82	<b>1.68</b>

## 減価償却費・資本的支出・研究開発費



単位：億円

	2019年3月期	2020年3月期
<b>減価償却費</b>	279	<b>348</b>
<b>資本的支出（無形資産を含む）</b>		
通常投資	271	<b>257</b>
戦略投資、他	51	<b>413</b>
合計	322	<b>670</b>
<b>研究開発費</b>		
建築用ガラス事業	26	<b>27</b>
自動車用ガラス事業	30	<b>26</b>
高機能ガラス事業	8	<b>9</b>
その他	30	<b>28</b>
合計	94	<b>90</b>

## 2019年11月～2020年4月 主なニュースリリース



2019年12月24日	子育てサポート企業として「プラチナくるみん」認定を取得
2020年1月6日	「健康経営宣言」について
2020年1月30日	ベトナムにおける太陽電池パネル用ガラス製造設備の改修完了について
2020年2月5日	高透過ガラス「オプティホワイト®」をアーティゾン美術館が採用
2020年2月25日	瞬間調光ガラスUMU(ウム)が量産国産車に初採用
2020年2月27日	水素エネルギーによるガラス製造、世界初の実証実験へ
2020年2月28日	近鉄の新型特急「ひのとり」先頭車両に当社ガラスが採用
2020年3月31日	個別開示項目費用の計上および配当予想の修正に関するお知らせ
2020年4月30日	取締役及び執行役の報酬の自主返上について
2020年4月30日	2020年3月期決算発表の延期、第154期定時株主総会の議決権の基準日設定および新型コロナウイルス感染拡大による影響に関するお知らせ

# NSG

GROUP